

町長に提案！ 高森町子ども議会



今年の子ども議会には、高森中学校3年生の8人と、高森学園9年生の3人がそれぞれの班でまとめた意見を発表しました。

議員になった子ども達の意見は、国の課題にもなっている少子高齢化・過疎化・地域



1 班



2 班



3 班



議長 住吉 愛香さん

活性化などに焦点をあてたもので、今まで以上に楽しく住めるように、アイデアを出したものでした。

高森中と東学園の生徒が合同で発表した1班は、奥阿蘇キャンプ場にアスレチック施設を作ったり、主幹道路（町道永野原・河原線から林道阿蘇東部線）沿いに休憩所を作ったり、観光地としての整備を提案。生徒はTV会議で打ち合わせをし本番に臨みました。2班は、中学生が英語を使って観光案内をするというインバウンド対策を打ち出すなど新しいアイデアを発表しました。また、3班は移住定住と遊休農地の活用を見事に融合させた提案をしました。

執行部に鋭い質問を投げかけた子ども議員に、田上議長も「答弁がきびしくなってきた」「あと数年で有権者になる。是非これらの提案がどう活かされたか今後も確認してほしい」と講評を述べました。また、子ども議会の議長を務めた住吉愛香さんは、「普段子ども達の生の声を聞いてもらえる機会がない。草村町長をはじめ多くの方にこの声を聞いてもらう機会を設けていただいたことに感謝しています」と述べました。



秋の 草部を彩る 地とうきび

秋色の代表格・オレンジ色が鮮やかな地とうきびの掛け干し。数十年ほど前は、奥阿蘇ではこの季節の風物詩とも言われていたこの掛け干し、今ではほとんど見かけません。地とうきびは、一般的に出回っているとうきびより鮮やかなオレンジ色で、もちもちとした歯ごたえのある味わいが特徴的です。

草部下切地区に住む甲斐好夫さんは、毎年9月頃に畑で獲れたとうきびを自宅の納屋に掛け干します。イノシシ・タヌキ・カラスも狙うなか、今年は約5000本を収穫しました。

甲斐さんは、獲れたとうきびを6本単位の束にして、竹で作った土台に、下からすき間なく掛けていきます。こうして、きれいに作られたとうきびの掛け干しは、11月に自宅の敷地で行われる下切地区収穫祭の目玉として人々の目を惹かせています。

「むかしのとうきびは、赤みが強くてきれいだった」と、甲斐さんは言います。今は、外来種が混ざり、その色味に変化が出てきているそうです。実が揃って赤みが特に美しい10本を翌年分として手元に残します。

掛け干しされたこのとうきびは、冬將軍を迎える12月、粉末状に形を変え、物産館などに出荷されます。



▲良いとうきびを教えてくださいの甲斐さん